要　望　活　動　報　告　書

実 施 日 等	平成２６年７月１日（火）　18：30 於：今昔亭（会津若松市）
要　望　者	会津総合開発協議会 会　長　会津若松市長　　室井 照平 副会長　只見町長　　目黒 吉久 副会長　湯川村長　　大塚 節雄 （代理　副町長　栗城 健一） 理　事　金山町長　　長谷川 律夫 （代理　副町長　押部 源二郎） 会　員　会津坂下町長　　齋藤 文英 （代理　政策財務課長　安藤　信之）
要　望　先	「赤字ローカル線の災害復旧等を支援する議員連盟」 会長　衆議院議員　宮路　和明　様 事務局長　衆議院議員　菅家　一郎　様 事務局次長　衆議院議員　大西　英男　様 事務局次長　衆議院議員　務台　俊介　様 事務局次長　参議院議員　江島　潔　様 衆議院議員　赤枝　恒雄　様 衆議院議員　菅野　さちこ　様 衆議院議員　武井　俊輔　様 赤字ローカル線の災害復旧等を支援する議員連盟 様は、全国に存在する赤字ローカル路線が、激甚災害等で被害を受けた場合、災害から路線を復旧させて、地元住民の生活等を守る事を目的に、法令等の改正、災害復旧補助要件の見直しなどの措置を講ずることを目指しご尽力されております。
要 望 内 容 及び 要 望 事 項	【最重点要望事項】 〇ＪＲ只見線の早期全線復旧について ※詳細は下記のとおりです。

要望の様子	 宮路 和明　会長へ要望書を提出。 室井会津総合開発協議会 会長よりＪＲ只見線の会津川口駅と只見駅間の不通区間早期開通に向けＪＲ東日本へ要請と、国の財政支援措置を講じていただくようお願いいたしました。

赤字ローカル線の災害復旧等を支援する議員連盟

会長　衆議院議員　宮路 和明　様

要　望　書

会津総合開発協議会

【構成市町村】

会津若松市	猪苗代町	三島町
喜多方市	北塩原村	金山町
下郷町	西会津町	昭和村
檜枝岐村	会津坂下町	会津美里町
只見町	湯川村	南会津町
磐梯町	柳津町	

表紙の「　」は昭和４７年公募により制定された会津総合開発協議会のシンボルマークです。

会津総合開発協議会は、誇りうる郷土会津の輝ける明日を拓くため、「会津はひとつ」の理念のもと、昭和 38 年に全会津 28 市町村が集結、結成され、平成 25 年に設立 50 周年を迎えました。
これからも、郷土愛と地域開発へのあふれる情熱、そして各市町村の強固な結束力を糧として、郷土の発展を願い活動してまいります。

要　望　書

会津地方の振興につきましては、日頃より特段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京電力福島第一原子力発電所の事故による風評被害、加えて奥会津地方の重要な生活交通基盤であり観光資源でありますＪＲ只見線の一部区間の不通は、会津地方の振興と発展には大きな痛手であり、当地方の最重点課題であります。

これらの災害から立ち上がるべく会津地方一丸となり取組み、さらには全国の皆様からの多くのご支援をはじめ、国、県のご指導、ご支援をいただきながら、ここまで復旧、復興することが出来ましたことに心から感謝申し上げます。

今後は、これまでの取組みを次へのステップとして、更なる地域振興、発展のため、住民の安全・安心な生活を守り、将来に向けて災害に強い生活基盤、産業基盤づくりを進めていくため、全力で取り組む所存であります。

つきましては、施策の構築と予算措置にあたり、特段のご支援、ご高配を賜りたく、全会津 17 市町村長並びに議会議長により構成する会津総合開発協議会をもって要望するものであります。

平成２６年７月１日

会 津 総 合 開 発 協 議 会

会長　会津若松市長　**室　井　照　平**

会津総合開発協議会　会員名簿

（　市町村長　）		（　市町村議会議長　）	
会津若松市長	室　井　照　平	会津若松市議会議長	戸　川　稔　朗
喜多方市長	山　口　信　也	喜多方市議会議長	齋　藤　仁　一
下郷町長	星　　學	下郷町議会議長	佐　藤　一　美
檜枝岐村長	星　　光　祥	檜枝岐村議会議長	星　　哲　二
只見町長	目　黒　吉　久	只見町議会議長	齋　藤　邦　夫
磐梯町長	五十嵐　源　市	磐梯町議会議長	穴　澤　　保
猪苗代町長	前　後　　公	猪苗代町議会議長	長　沼　一　夫
北塩原村長	小　椋　敏　一	北塩原村議会議長	小　椋　　眞
西会津町長	伊　藤　　勝	西会津町議会議長	武　藤　道　廣
会津坂下町長	齋　藤　文　英	会津坂下町議会議長	古　川　庄　平
湯川村長	大　塚　節　雄	湯川村議会議長	小　林　孝　一
柳津町長	井　関　庄　一	柳津町議会議長	伊　藤　昭　一
三島町長	二　瓶　隆　司	三島町議会議長	小　柴　修　一
金山町長	長谷川　律　夫	金山町議会議長	長谷川　盛　雄
昭和村長	馬　場　孝　允	昭和村議会議長	渡　部　長　治
会津美里町長	渡　部　英　敏	会津美里町議会議長	横　山　義　博
南会津町長	大　宅　宗　吉	南会津町議会議長	芳賀沼　順　一

最重点要望事項

ＪＲ只見線の早期全線復旧について

会津地方は、平成23年７月27日から30日にかけて記録的な集中豪雨に見舞われ、広範囲に渡って甚大なる被害を受けました。

河川の氾濫や土砂災害により、多くの住宅、農地、道路等が損壊し、ＪＲ只見線においては３つの橋りょうが流失するなど、まさに未曾有の大災害となり、住民生活に大きな影響を及ぼしております。

国においては、当該災害を激甚災害に指定し、道路や流失した橋の復旧は進んでいるものの、林道の災害復旧については、豪雪地帯であることや労務者不足などが要因となり遅れが生じており、加えて、奥会津地域に不可欠な交通手段、観光資源であることはもとより、広域的な観光・交流ネットワークを形成するうえで重要な基盤であるＪＲ只見線の一部不通区間も依然として見通しが立たない状況が続いており、課題は多く残っている状況にあります。

こうした中、福島県と会津地方１７市町村は、ＪＲ只見線の一刻も早い全線復旧に向け、協力して基金を創設したところであり、地元として復旧資金を拠出し、また、利用促進に向けた取組みを強化しているところであります。

ついては、高度経済成長期のＪＲ只見線の役割を再認識するとともに、被災地域において、日常生活が一日でも早く取り戻せるよう、下記のとおり、強く要望いたします。

記

ＪＲ只見線の会津川口駅と只見駅間の不通区間早期開通に向け、ＪＲ東日本へ要請するとともに、財政支援措置を講じていただきますようお願いいたします。

また、国、ＪＲ及び地元自治体で連携し、再開に向けた取組みをさらに強化するようお願いいたします。